

平成10年(1998年)6月1日発行

技術交流促進の産学リエゾンセンター発足 産官学連携とOBネットワーク

増田 伸爾教授(センター長)



増田教授

「産学リエゾンセンター」が発足した。その運営リーダーが、今年度から本学に就任された、前東京工業大学教授で、カリフォルニア大学での豊かな研究経歴をもつ増田伸爾教授だ。ここにセンターの果たすべき役割および目指す方向性を開示して頂いた。

世界をリードする技術力を背景に世界最強を誇ってきた日本経済が、九十年代に入って急速に落ち込んできている。この状況に対処するため科学技術基本法・基本計画が制定され、産学連携等による大学の社会的貢献の推進が国の重要な施策となってきた。

本学では、こうした社会の期待に応える目的でこのたび産学リエゾンセンターを新設し、産官学連携活動を強力に推進することになった。これまで私は東京工業大学研究・情報交流センターで産官学連携の推進の任にあたり、同時に、同時に全国百数十ヶ所のサイエンスパーク(産官学研究開発拠点)の実態研究を続けてきた。こうした経験を生かして、産官学連携の推進に活かしていきたいと考えている。

まず第一は本学のもつ高い技術能力である。しかも本学は実学を重視しており、スタッフならびに施設の充実度は日本の大学の平均的水準をはるかに超えるレベルにある。これは、技術社会のさまざまな要請に応えるという点では高い適性をもっているといえる。次に卒業生の全国的分布である。本学は学生が全国から集まり、卒業生として全国各地の実業の場に散って、技術の中核的存在として高い評価を受けている。しかも彼等の就職先企業の大半は、日本の技術社会を現実的に支えてきた中堅、中小企業である。その意味で、本学卒業生のネットワーク化のもつ意味ははかり知れない位大きい。

本学における産官学連携研究協力・人材育成など多岐に亘ることが考えられるが、そこで中心となるのは企業あるいは外界とのリエゾン活動である。リエゾン活動を通してどれだけ機能的なネットワークを構築できるかがカギとなる。ここで、産官学連携を実施する大学側の基本姿勢としては次のような理解がベイスになければならない。そもそも、先端的な研究や優れた教育は大学だけで行われているわけではない。社会の他の様々な機関や分野でも行われている。こうした優れたものを吸収していかないと、大学は社会的に取り残されて、その社会的機能を果たせなくなるという認識を持つことが、産官学連携の出発点である。したがって、大学が一方的に産業界や関係機関を指



第8回総会風景

本学工業技術博物館が 歴史的価値のある工作機械の 表彰事業をスタート!!

導・教育するというのではなく、外界から優れたものを吸収して大学が変わっていくという発想がなければ、産官学連携は不毛である。このような基本姿勢をも

この五月十五日、学友会館において、日本工業大学工業技術博物館後援会の第8回総会が開催された。総会は、大和田会長(左上の囲み記事参照)の開会の辞に始まり、所用で欠席の神馬学長の代理として機械工学科主任・柳澤章教授が挨拶。次いで鈴木昭館長が、例年どおり平成九年度の事業報告や決算報告を行い、さらに新年度の事業計画および予算案を提出して満場一致で承認され、会は滞りなく終了した。

近き内容確定をみるのが、今回の注目点は、博物館開設十周年という節目に、「歴史的価値のある工作機械の表彰」という新事業への取り組みの方針が打ち出され、会員諸氏の強い賛同が得られたことだった。

ちなみに事業内容は、細目が決まった段階で広く公表される運びだが、その意図は「わが国の産業界において一時代を画した工作機械の名機を顕彰。さらなる工作機械の進歩発展に寄与したい」(大和田会長)というものである。後援会ならびに博物館が主催、選考委員は学会・産業界等からその道の第一人者に委嘱。名実ともに権威ある賞に位置づけることを目指している。

なお閉会後の特別講演として、日本工作機械販売協会専務理事・平野勤氏の特

別講演「工作機械産業の特徵と内外の動向」を開催し、参加者の感銘を呼んだ。

精密工学会主催「小さなロボットのコンテスト」で 日本工業大学が準優勝獲得

去る3月20日、精密工学会が主催するロボットコンテスト「小さなロボットのコンテスト」において、本学学生メンバー(機械工学科機械要素研究室研究生)が優秀な成果を収め、表彰された。

同コンテストはマイクロ

わが日本工業大学が誇る施設の一つ、工業技術博物館の後援会長として多大なるご尽力を賜っている大和田国男さんは、いま「モノづくりと人……生産技術・生産管理・工場診断」と題する著作の仕上げに取り組んでいる。



(おおわだ・くにお) 1919年生まれ。43年東京工業大学機械工学科卒業。46年(株)不二越入社。79年同社取締役社長、93年相談役最高顧問に就任。日本工具工業会理事長、日本プラントメンテナンス協会会長、日本設備管理学会会長、富山県機械工業会会長などを歴任。工学博士。

企業経営や公職面においても、まことに分厚い足跡を築いてこられたお方である。

その大和田さんが平成三年十月、後援会長を引き受けられたのは、博物館の設立準備委員会

「なにしろ教諭は、蔵前出(現東京工大)の錚々たる方々。それにこの種の学校では最高級の実験・実習設備が整っているし、専門を超えて生活科学、都市工

とに、関係する機関や個人に対して、明確な役割分担システムとインセンティブシステムを構築していくことが、私に課せられた最初で最大の課題と考えている。



左より喜びの菊地健一、木村正輝、関一郎の諸君

今回の大会では東京大学・中央大学・電気通信大学・シチズン時計・ミノルタ・NTT・オリンパス光学など56チームがエントリーし、強豪ひしめく参加者の中、堂々の準優勝となった。

主な成績は「作業マイクロメカニズム部門」で関一郎君が準優勝、菊地健一君が3位入賞、「木登りマイクロメカニズム部門」では木村正輝君が準優勝を果たした。尚、メカニズム製作に当たり並木精密宝石(株)に無償でモータの提供をいただ

学園創立90周年
記念事業募金

寄付者ご芳名

学園創立九十周年記念事業の趣旨にご賛同賜り
関係方面から心温まるご支援をいただきまして厚
く御礼を申し上げます。

お陰様で、平成十年三月三十一日現在、大学に
対するご寄付として、二億九千六百万円余り（内
訳・後援会より一億五千万円、工友会より二千万
円、その他に三、二〇一件、一億二千六百万円余
り）のご協賛をいただきました。

ここに寄付申込者のご芳名を掲載させていただき、改めてご協力賜りました方々のご芳志に対して厚く御礼を申し上げます。

なお 四月一日以降にご寄付いただいた方々のご芳名は十一月発行の本紙に掲載させていただきます。

揭載要項

一、ご芳名は、大学へご寄付をされた方のみを掲載し、高校・中学校へご寄付をされた方のご芳名は掲載されていません。

二、平成八年八月一日から平成十年三月三十一日までにご寄付された方を掲載いたしました。

三、掲載の順番は、ブロック別に五十音順とし敬称は省略させていただきました。

創立九十周年記念募金協力のお願い

★日本工業大学

平成十年七月三十一日まで募金の受付をしていますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

★日本工業大学付属東京工業高等学校、日本工業大学付属中学校

目下、記念事業進行中です。平成十三年九月三十日まで募金の受付をしていますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金要領

●募金の種別

○個人一口一万円

○法人 一口 十万円
（二口以上）

お問い合わせ先 (二口以上)

募金委員会事務

(日本工業大学経理課内)

○四八〇—三四—四二

内線
三

記念式典に先立ち、協力に謝意を表する大川理事長



学園は次のとおりの創立九十周年記念事業を行いました

①式典と事業報告会、キャンパス公開ほか祝賀会の開催②記念誌（副題は「ひとの世紀へ」）の刊行③大学キャンパスにおいては、学生の厚生施設である「スチューデントセンター」の建設。中学・高校の駒場キャンパスでは、平成十二年の完工予定で校舎の全面的リニューアル（現在工事は進行中です）④本年二月二十四日に開催した「感性と工学」をテーマとした国際フォーラムの開催⑤その他、学生・生徒と地元の方々の参加を得た文化・体育行事等多くの記念行事を行いました。

取引・就職・その他

(株)アイエスビー	(株)愛工社	(株)愛植物設計事務所 (株)アイティーオー アイメックス(株) 上尾興業(株) 旭精工(株) (株)トバエレクトロニ 安部 雅之 (有)阿部測量設計 事務所	(株)アミノ エンテナ技研(株) エヌエスエレクト トロニクス(株) 荏原シラント建設(株) エビスヤ工業(株) (株)エフテック 大川 功 (有)オオゼキ印刷 大高電設(株) 太田昭和監査法人 大塚機械(株) (株)大林組 柿沼 トシ子 角田食品(株) 鹿島建設(株) かどやストア (株)カネコ 金田 守正 日鉄エンジニアリング(株) (株)関東電気自主 検査協会 北野精機(株) (株)紀伊國屋 キヤノン精機(株) 共和鐵網(株) (株)熊谷組 (株)熊谷精密(株) タカラワカメラ店 桑嶋日石(株) 興亜火災海上保険(株) 日本工業大学 工業 技術博物館後援会 廣告社(株)	(株)弘電社 (株)広洋社 広洋装美(株) (株)晃和設備 コスモリンク(株) (株)ゴトウネジ 小原齒車工業 (株)小松ミート 小武フドウチヤ コムベックス 近野 敏雄 埼玉リコー(株) (株)さくら銀行 佐藤 富美男 澤藤電機(株) 三英電業(株) 三建設備工業 三州製菓(株) 三進工業(株) (株)サン精密化 研究所 塩田 浩司 紫光電気(株) (株)シズテムサイ (株)シズテム総 芝電機(株) (株)シマケン (有)新川屋 (株)翠正園 スガツネ工業 スタンレー電気 スーパコンチ (有)ネリシヨア (株)住友銀行 (有)誠和技販 関口 勝 ソフトウエア 報聞発(株) 第一設備工業 第一緑興(株) (株)大栄建設 大賀建設(株) 大成温調(株) (株)泰成工業所 タイテック(株) 大同信号(株) 大東電業(株) 武井 稔 多田建設(株) 谷口 貞作 (有)田村組
-----------	--------	---	--	---

後援会
(青森県)

赤井芳一	白川 富志博
秋田 良逸	神 祐康
安達 関雄	神 泰幸

後援会（岩手県）

小ケ口 安昭	今 博康	今 義則	佐々木 伝之進	佐藤 秋男
山内 宏	山口 武夫	山本 誠一	渡辺 繁男	

後援会（山形県）

佐藤勝美	藤原政一
佐藤健次	三船廣信
佐藤庄二郎	元木悦子
佐藤信夫	山内哲雄
佐藤吉蔵	吉富孝彦
佐藤隆盛	

後援会（北海道）

後援会（北海道）

後援会（宮城県）

後援会（宮城県）

後援会（秋田県）

後援会（秋田県）

技術教育国際フォーラム協議会 シンポジウム
平成10年2月24日(火) P.M.1:00～P.M.5:00 会場:東京国際フォーラム(ホールC) 入場料:無料



日本工業大学
東京都内のJR各駅に掲示のポスター

成果を収めた国際フォーラムの開催と 快適なスチューデントセンターの完成

感性と工学

工業教育の明日のための、新たな「知」の形成の必要性を徹底討論！

技術教育国際フォーラム



熱心にフォーラムの討論に聞き入る約1500名の参加者



(司会)
小出 五郎氏
NHK解説主幹



黒田 玲子氏
東京大学大学院教授



W.M. ボーナー氏
イリノイ州立大学教授



河合 隼雄氏
国際日本文化研究センター
所長



吉川 弘之氏
日本学術会議会長



有馬 朗人氏
理化学研究所理事長



式典の壇上に並ぶ来賓のアジアの学術
交流大学の理事長ならびに学長ら諸氏。



挨拶を述べる大川理事長



式典終了後に催された懇親会風景

記念式典

内外より多数の賓客を迎え
二十一世紀への飛躍を期す

事業年度の終尾を飾る技術教育国際フォーラムが、二月二十四日、東京国際フォーラム「ホールC」を会場に、盛大に開催された。基調講演者ならびにパネラーには、上記に紹介の方々が登壇、感銘深い所説を披露された。なお本会は、日本学術会議、文部省、通商産業省、科学技術庁、日本工学会(93学協会)、日本工学教育協会、国立高等専門学校協会、全国工業高等学校長協会、青少年科学技術フォーラム協議会、経済団体連合会、日本放送協会の諸団体からご後援頂いた。

◎竣工のスチューデントセンター



ご協力ありがとうございました

御園	水永	見上	萬崎	松原	松井	増田	正木	本多	星久木	古井	布施	福永
光雄	幸夫	豊七	義一	紀	俊夫	修武	和秀	薫	春夫	勲	紘一	昇二
	渡部	和田	吉田	吉住	山本	山本	山下	森正	宮田	美濃輪	三橋	三ツ橋
	美正	正彦	茂俊	晴雄	三男	剛	正信		雄二	邦雄	秀夫	喜一

後援会（東京都）

相澤 勲	青山 秀夫	阿川 泰男	秋谷 智江	秋山 忠昭	淺海 正興	淺賀 日米男	朝比奈 光平	荻原 健一	阿部 修一	安部 庄吾	天沼 辰吾	新井 偉男	荒川 源一	荒川 泰男	有馬 司	豬野 維公	五十嵐 繁治	池井 喜美雄	池田 昌弘	池田 欣弘	池原 寿美	石井 和子	石井 清隆	石井 孝治	石崎 俊平	石橋 昭	石橋 秀雄	伊藤 勝雄	伊東 三吾	井上 正行	今井 明	今村 公男	岩上 進	印部 昌治	植田 耕治	植田 益生	宇治 成俱
内田 和夫	内田 浩	江原 国夫	笈川 忠三	大泉 健三	大内 重夫	大金 正平	大島 一夫	太田 興也	大野 公明	大和田 正樹	小笠原 長世	岡田 健太郎	岡田 俊之	岡田 和貴	岡野 正夫	小川 曉美	奥村 耕作	長田 之孝	長村 正行	小沢 庄一	小津 都司男	小野寺 博司	小幡 正春	柿戸 政広	柿沼 洋子	鹿島 孝治	堅田 勇	勝沢 謙二	加藤 茂	加藤 友三郎	加藤 勝	金親 徳造	金子 元英	樺澤 美津夫	神谷 芳宏	川崎 孝一	神原 永利

神戶 忠彦	清水 進
菊池 克美	清水 利憲
菊池 智也	清水 則夫
岸 選三郎	清水 博
北上 武志	白石 輝雄
木村 仁一	鈴木 達也
國上 誠一	鈴木 常雄
久保木 宏	鈴木 尚
久保田 一夫	須長 梅夫
窪田 康寛	関 堅
熊野 義友	関 昭司
倉館 善郎	関 正己

小池 正夫	高垣 一雄	小井沼 清	高品 幸二	香坂 信一	高杉 正弘	小杉 新次郎	高橋 莞子	小林 征雄	高橋 実生	小林 功	高橋 鎭代	小林 輝夫	高橋 孝雄	小林 延吉	高橋 豊治	小林 勝	高橋 文雄	小松 正樹	高藤 敏見	小松原 勝元	滝口 敏之	小松原 健夫	田口 一義	五味 正勝	竹内 和雄	小南 勝治	竹内 志郎	近藤 義治	竹中 義成	今野 一雄	館田 進	齋藤 深志	田中 準一	齋藤 昌美	田中 孝男	齋藤 守弘	田中 敏夫	齋藤 義勝	田中 安治	酒井 直武	谷本 幸弘	酒井 信雄	塚田 正裕	坂巻 武夫	辻 等	崎山 純光	㈱土屋建設	佐々木 英成	東海林 栄	佐々木 英雄	朽金 昶演	笹本 佳夫	内木 利夫	笹森 十三雄	内藤 要	佐生 源一	直井 謙二	佐藤 史朗	中里 實	佐藤 清一	中根 秀子	佐藤 英明	名古屋 牧	佐藤 正雄	並木 啓次	佐藤 光子	奈良林 正昭	佐藤 安夫	西脇 昇	篠田 和雄	二瓶 暁吉	篠田 仁夫	二瓶 良市	篠田 高一	猫矢 絵実	柴崎 慎也	野口 勝雄	野口 好造	柴田 信夫	羽賀 正	洪谷 光雄	羽賀 正
-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------

橋爪 信吾
橋本 博
波多野 秀明
花形 吾一
林 伸行
林 秀雄
原島 勇

後援会
(神奈川県)

蛭田 豊
比留間 英吉
広田 和義
深川 徹雄
深田 和夫
福田 勝

藤岡	經巳	藤田	勇	藤卷	潤	古川	榮一	古沢	英世	邊見	勝	堀井	民夫	堀口	成晴	洪	尚淳	前田	泰治郎	真下	隆次	松井	修	松崎	英昭	松原	章	松村	純一	松本	薫	松山	芳博	丸山	重良	水野	松子	三橋	育夫	三橋	興司	嶺川	政幸	峯岸	義彦	(有)三原工務店		宮城	昭一郎	宮崎	英雄	村田	明生	本橋	聖一郎	本橋	清記	元久	義行	本山	昌敏	森田	勝利	森田	盛行	森永	義隆	八木澤	繁	矢崎	和則	安田	享輝	南柳	蚕
----	----	----	---	----	---	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	---	----	----	-----	----	----	----	---	----	----	----	---	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----------	--	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	---	----	----	----	----	----	---

山崎剛	山崎文男	山田鎮雄	山本照夫	山本弘	幸高治	横井捷彦
横倉昭	横山夏子	吉岡満寿美	吉田好枝	吉田隆二	若山満	渡邊操子

後援会
(神奈川県)

青木 正夫	菅井 孝
安部 勝芳	杉山 勝
天野 正	鈴木 政好
飯尾 みさ子	砂川 護
飯嶋 信男	臺 勇勝
飯田 義夫	竹田 秀吉

五十嵐 乾一	石井 昇	石坂 重人	今井 晃	宇條 建郎	内海 準二	遠藤 厚志	遠藤 秀之	太田 茂	小川 清彦	小川 文男	荻野 文雄	小澤 正男	海津 建治	柏木 正純	加藤 亮爾	金子 久夫	岸部 十七	沓澤 弘毅	工藤 英代	久保田 芳實	小嶋 幸三	後藤 匡昭	小林 榮	小林 秀男	小森 俊昭	齊藤 裕	齋藤 純男	サイニツク(有)	汐待 春臣	品原 宏通	嶋田 邦夫	白井 泰弘	新門 三千夫
多田 秋義	立澤 和夫	谷口 淑	徳川 茂雄	戸部 時雄	富田 幸弘	鳥住 潮子	中村 麻子	中山 順敬	樋口 猛	彦坂 幸男	日比 信一	平野 一郎	布川 隆康	福田 雅二	藤井 亘	堀内 重利	堀越 浩	堀地 哲男	松澤 博	松本 眞	宮地 静子	宮原 延繁	村石 輝夫	本橋 勇	山井 稔	山本 訓史	横尾 年裕	吉越 勝之	吉田 幹雄	渡邊 俊雄	渡邊 森造	渡邊 義博	

阿部 一彦
阿部 俊雄
安藤 堪磁
飯塚 博
五十嵐 憲二
五十嵐 久男
石岡 政春

眞田 亨	佐野 繁一	佐野 十三男	塩尻 藤夫	清水 春夫	辛 栄一	鈴木 清	鈴木 武宏	清田 進
------	-------	--------	-------	-------	------	------	-------	------

稻葉 俊一	猪股 義光	今井 章一	歌代 利男	遠藤 啓一	大日向 勇
関崎 幸作	相馬 政春	高畑 道雄	高山 正廣	田中 正和	田中 三佐男

岡田博	田中洋一	尾崎俊夫	棚橋三男	小野塚進	田邊典夫	片沼正	田辺範男	加藤晃	種部一也	加藤昇	塚野益美	金井公男	塚本稔	北村義昭	土田誠	吉川潔	土屋誓士男	木了時雄	富樫真一	工藤信敏	土佐哲陸	熊木均	豊田祐二	熊木浩	内藤政徳	熊倉秋男	長井眞一	五井莊二	中倉誠三	小出信夫	長束新一	小玉一雄	中俣詢	小林佳一	中村賢一	小林克司	中村博	小林徹	中村寛	小林保久	成澤勝治	小森順子	南場忠雄	近藤貞義	西片勲	近藤隆夫	西山修二	齋藤芳久	長谷川顯	齊藤隆次	長谷川博	坂井行夫	畠山司	坂上七栄	波多野善次	佐久間初雄	原順次	佐々木博一	原吉男	佐々木康男	原田岩夫	佐藤和良	平岡一夫	佐藤久仁男	廣川修	佐藤巧	藤澤邦夫	佐藤利和	(株)アレック	佐藤壽一	保坂政信	佐藤博	星久子
-----	------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	-----	------	------	-----	------	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	------	-------	-----	-----	------	------	---------	------	------	-----	-----

星野 伸一	矢川 武
星野 宏康	矢部 良男
堀川 利一	山川 桂
前田 芳幸	山口 聰夫
松崎 徳市	山崎 京子
松橋 公秀	山崎 吉一
松本 一郎	山室 一皓

桑原 秀雄	木次 正美	河村 仁	叶 秀光	影山 文雄	小澤 勝仁	長田 民三	奥秋 潔	小川 克亮
三井 一馬	三浦 行男	前田 哲郎	福島 邦弘	平野 利晴	羽田 広澄	中島 義彦	田中 久司	相馬 大

三留 正幸	箕輪 隆	村上 矢太郎	村上 正寿	村山 義信	百川 幹雄
吉田 龍美	六井 清彦	若月 光昭	和田 英夫	渡邊 育博	

後援会 (山梨県)	後援会 (福井県)	後援会 (石川県)	後援会 (富山県)
秋山 正 猪股 邦雄 上田 清明 大木 信正	井口 眞人 柏木 明 長崎 公彦	岩崎 みよ子 太田 幸長 北村 猛雄 園田 敏行 田村 哲雄 西村 健 根矢 謙二 林 富士雄 深見 保 藤田 政樹 町家 尚 三田村 稔 森澤 国夫 山田 之成 山本 幸平	阿閉 秀隆 安部 孝司 新木 善文 安藤 繁 石黒 康男 猪上 澄男 岩田 純 大橋 義信 川原 清直 北 宗治 喜内 憲二 黒田 正明 黒畑 吉盛 齊木 丈也 杉本 忠夫 辻 正幸 中島 哲夫 中村 和雄 西本 信一 橋場 和雄 畑野 誠一 富居 重吉 藤岡 宏 松島 春男 松田 賢司 水口 建治 向 慶莊

小川 克亮	相馬 大
奥秋 潔	田中 久司
長田 民三	中島 義彦
小澤 勝仁	羽田 広義
影山 文雄	平野 利晴
叶 秀光	福島 邦弘
河村 仁	前田 哲留
木次 正美	三浦 行周
桑原 秀雄	三井 一馬
小林 五張	望月 等
佐藤 邦夫	望月 保敦
塩島 篤夫	森 英夫
末木 藤男	吉原 正立
鈴木 高久	

後援会（長野県）

櫻井 三枝	坂間 正行	坂口 武志	坂口 和昭	小山 寿雄	小林 好男	小林 義夫	小林 博	小林 久之	小林 治	木場 正則	児玉 久夫	小岩井 典	小池 好孝	倉島 一雄	熊澤 孝昭	工藤 研治	日下部 雲	木下 重昭	北原 忠	北澤 勉	北澤 健司	北澤 研	神林 慎	川上 隆	唐沢 福	唐澤 春雄	唐沢 次男	唐澤 清	上條 誉	上條 泰	上條 憲弘	上島 鷹	鎌田 俊次	金子 富嗣	金田 一男	
勝野 福美	小沢 正明	小澤 勝彦	小口 憲一	荻原 睦芳	荻原 幸子	小方 清一	大和 芳夫	大野 英治	大槻 正喜	大塚 美登	太田 順三	太田 茂	大木 敏雄	遠藤 千春	梅松 勲	内堀 亘夫	内川 敬司	上原 尚武	上野 公哉	上野 和夫	今村 健	今井 高市	伊藤 稔	伊東 徹男	井出 和史	市川 勝浩	池田 恵一	井口 孝夫	五十嵐 大修	飯田 光雄	有賀 博人	有賀 孝男	新井 紀男	(有)赤羽電氣商会	赤羽 高明	饗場 一二

佐々木 龍夫	西原 敏
笹沢 秀男	西村 孝
澤木 政良	西村 常雄
塩入 秀成	野口 茂美
塩沢 克志	帆ノ下 誠
塩原 代	馬場 一步
実原 博	林 藤治
篠原 正道	日詰 勇雄
島岡 勝	平林 三郎
清水 茂	藤内 孫八
白井 忠芳	藤野 明
白鳥 一市	藤原 敏永
杉浦 登	舟田 博
春原 昭	穂刈 博

関塚 洋
松村 昭

近藤 正司	近藤 一則	木村 正則	木造 敏彦	神田 政美	河口 安男	大野 助義	伊藤 俊次	澤田 敏昭	信田 克己	藤吉 博	八木 勝己	吉野 ソル子													
祖山 栄吉	迅町 嘉章	高井 聰	高木 繁雄	高野 勇	高橋 澄雄	高橋 洋子	竹内 節夫	竹下 照雄	竹村 政秋	田村 英雄	土屋 今朝三	手塚 計市	登内 義春	富岡 住男	外谷 衛	中澤 順子	中澤 啓矩	仲澤 正子	長島 敦子	中村 永夫	中山 謙二	南場 勲	西澤 清司	西澤 千尋	西沢 久
松本 房雄	丸山 孝雄	丸山 徳人	丸山 充代	丸山 幸雄	三浦 秀道	三村 重昭	宮崎 敏子	宮沢 洋平	宮下 勝美	武捨 幸雄	村松 伸和	両角 定吉	矢野 日出中	山口 恵治	山口 光雄	山口 幸長	山崎 正志	山村 直樹	山本 司郎	山本 喜弘	横田 孝俊	横山 増治	横山 征男	吉田 弘	和地 由雄

後援会
(静岡県)

山幸	新雅美	新經男	飯田修	池田豪	池田道太郎	池谷一明	磯部龍清	伊藤明	伊藤登久子	伊東彌	井上昭隆	井上敬三	内田道雄	内山和典	内山美規	江塚治美	大石勇生	大石茂	大石勝	太田文夫	大庭英介	大場和夫	岡部忠夫	岡部讓	岡本佑吉	小久江滿	尾崎勝己	尾崎信明	小野昌三	梶井健	春日信介	兼子康彦	川口友一	川嶋正行	上堀泰嗣	黒川修三	黒川保	桑野宗太郎	桑野和雄	結家邦昭	劔持昭	小塚己作	小西政司	坂下凱晟	佐川正治	笹岡功	佐藤忠	佐藤憲四	佐野章	佐野昂	野夫
佐野弘	塩沢達	鳴谷敏	芝井芳	嶋田和	清水孝	神保幹	杉浦永	杉浦初	杉本啓	杉山進	杉山智	勝呂豊	鈴木泉	鈴木五	鈴木勝	鈴木功	鈴木重	鈴木武	鈴木鐵	鈴木敏	鈴木智	鈴木勝	高野安	高橋秀	高橋浩	高見昌	田川銳	瀧俊則	武山清	田邊春	塚平勝	津崎州	都市公	徳永定	戸塚傳	戸塚昭	豊田宏	鳥居達	長島保	西井一	子上英	根木元	服部信	濱道雄	日比野	平野正	平野銑	平野保	平野登	平松唯	

井上 年夫

後援会（京都府）

大里 誠二郎

岡野 晴則

井上 忠夫

白井 喜三

打木 秩仁

大依 昇

瀬野 幸子

佃 和久

中村 守

藤田 雄一郎

前川 明

富田 廣之

後援会（滋賀県）

森三知男

板谷 芳隆

牛江 傳

梅田 隆生

岡 嘉男

岡島 敏男

小濱 光久

小宮 勝行

高橋 勝美

高橋 民郎

中野 廣三

服部 一秀

浜田 博恵

森三知男

後援会（三重県）

上野 榮一

遠藤 実男

高浜 輝夫

永見 敏夫

前田 俊幸

森下原 和弘

山田 栄一

山根 隆信

湯淺 正次

吉田 定夫

後援会（鳥取県）

浅田 竹芳

上野 榮一

遠藤 実男

高浜 輝夫

永見 敏夫

前田 俊幸

森下原 和弘

山田 栄一

山根 隆信

湯淺 正次

吉田 定夫

後援会（和歌山県）

上野山 義弘

岡 福喜

神吉 清

栗山 俊夫

阪本 隆

堀田 泰美

堀田 正博

森中 憲一郎

山本 和正

後援会（奈良県）

坂本 稔一

南 明

後援会（大阪府）

荒井 哲

久保 利明

寒川 好明

辻本 外雄

土井 勝秀

殿谷 順功

後援会（兵庫県）

明石 春海

忍 尚久

呉屋 總清

小谷 邦好

小畑 晴夫

財家 修

酒井 豊

竹田 敏行

辻井 重市

中井 章博

中山 和一

藤岡 幹生

藤本 英雄

（藤原建具センター）

吉田 一彦

重松 司

瀬川 久志

高橋 勝

館 高仕

長山 幹雄

中山 義信

松岡 二三子

山地 堅一

吉田 孝吉

渡辺 順平

後援会（広島県）

浅利 隆一

大利 巖

落畑 和則

河野 靖弘

河本 正博

寒林 孝徳

松田 豊作

松村 哲

南谷 章司

山崎 修一

後援会（山口県）

北山 光正

楠牟禮 正次

齋藤 良人

利重 修一

堀尾 良治

松本 清博

三家本 武士

村岡 吉一

後援会（徳島県）

尾之上 信義

五島 操

新居 堅一

七條 正男

向井 勝

矢田 薫

後援会（香川県）

大坪 勝英

富木田 吉廣

藤川 一雄

後援会（愛媛県）

池田 千代

門屋 桂

田中 源一

玉田 成利

土井田 学

富田 省一

野間 欣也

濱野 森博

桧垣 道利

平石 重雄

後援会（高知県）

伊藤 七海雄

西山 勲

藤本 安夫

松本 誠史

宮崎 義丈

矢野 憲一郎

吉本 一夫

後援会（福岡県）

柴田 隆和

一田中 達郎

後援会（長崎県）

児玉 重利

後援会（熊本県）

岩尾 隆雅

後援会（大分県）

猪野 健児

曽宮 重則

村上 秀義

後援会（宮崎県）

星 新作

穂積 俊夫

松田 五郎丸

丸山 乙弘

武蔵野環境整備（株）

横尾 米子

横尾 勇

吉田 稔

米森 万三郎

（株式会社）

和田 勝

後援会（鹿児島県）

上養母 達己

鎌田 隆一

小西 法行

斉藤 友康

佐藤 勝二

佐藤 一憲

鈴木 雅己

磯野 優

岡 和生

平間 善行

細川 正

●76年度

岡本 和三

谷 幸弘

中陳 孝教

松倉 宏一

●77年度

秋谷 充彦

上野 幸蔵

斉藤 亮一

須賀 健男

立石 晴基

奈良場 淳一

●78年度

榎本 万記夫

長島 宏

西坂 秀作

青木 勉

上浦 隆

杉山 幸夫

●80年度

井口 秀行

久保田 直裕

大内 厚

●70年度

磯野 精博

岩添 保夫

大矢 貫

君島 純一

佐々木 文昭

高野 伸四郎

西田 芳則

吉田 忠雄

●71年度

赤間 松三

牛尾 実

桑原 慶祐

常見 喜治

遠島 進

●72年度

加藤 幸一

木下 実

窪田 次男

沢野 清

野村 陸男

森口 優

八木 正泰

●73年度

北沢 仁一

喜友名 朝徳

佐々木 茂幸

妙中 寛治

日貝 宏

●79年度

藤波 裕司

堀部 正樹

真金 秀雄

丸山 邦夫

●74年度

大内 厚

●81年度

中野 秀次郎

中村 サク子

西坂 昌子

日貝 俊子

（株）沼尻電気工事

野田 繁男

萩原 孝男

藤井 義祐

藤本 茂

古川 竹彦

古橋 清

星 新作

穂積 俊夫

松田 五郎丸

丸山 乙弘

武蔵野環境整備（株）

村上 仲子

望月 孝

茂木 利夫

矢倉 章吾

山口 莞二

山口 敬一

山中 重蔵

山本 定夫

横内 芳雄

横尾 米子

横尾 勇

吉田 稔

米森 万三郎

（株式会社）

和田 勝

●70年度

大谷 政吉

儀保 祥一

金城 英三

平良 光徳

高江洲 義勝

西村 健

山内 茂男

山川 宗康

宮代会

●81年度

大出 栄正

荻野 勝俊

塚本 次郎

徳川 喜高

●91年度

荒井 健司

木岡 良之

国井 則克

小松 晃

清水 謙一

西沢 宣雅

三上 康太

渡邊 元一郎

●92年度

岡安 栄作

沖田 純一

尾高 実

小野田 和央

橋本 久

●93年度

杉浦 元治

田川 陽規

田中 裕之

畠山 武史

早川 治彦

藤井 健一

村田 浩

横戸 利平

●94年度

駒村 元啓

土谷 広一

二瓶 幹夫

松田 俊彦

吉田 修二

●95年度

岡田 武晴

笠原 誠

上條 学

桑原 紀博

篠木 真一

土井 仁

橋口 誠

藤森 元基

増田 誠二

●90年度

村越 貴史

宇津木 英一

●70年度

神原 守

（有）小林電気工事

虎井 幸一

●71年度

荻島 君夫

佐川 順治

吉田 知夫

●70年度

大沢 健宏

岡崎 実明

小林 幸雄

桜井 祝夫

津久井 稔

●82年度

川上 行敏

角田 浩幸

前田 栄一

古橋 清

星 新作

穂積 俊夫

松田 五郎丸

丸山 乙弘

武蔵野環境整備（株）

●83年度

菊池 徹

西垣 徳是

●84年度

生野 武夫

鈴木 康悦

高松 文仁

穂積 洋一

吉沢 壮一

●85年度

大谷 政行

小林 裕三

佐藤 明弘

●86年度

秋久 治

内樹 良二

尾崎 博史

小山 浩司

森田 浩幸

●87年度

岩瀬 敏郎

佐藤 秀樹

柴山 和則

中島 裕起

●88年度

細井 健司

山口 芳可

●89年度

足立 憲一

鈴木 昇

西田 仁

橋口 誠

藤森 元基

増田 誠二

●90年度

村越 貴史</

ご協力ありがとうございました

●84年度 宮崎 勝 ●85年度 進藤 真 高木 豊明 ●87年度 橋本 一男 ●88年度 薄井 務 ●89年度 高橋 成 望月 仁之 ●90年度 柿沼 晃夫 橋爪 喜悟 水野 肇之 矢倉 基晴 山浦 俊樹 ●91年度 飯島 忠嗣 川島 昌一	●92年度 小林 毅 久保田 健男 ●93年度 金城 剛 ●94年度 相川 敦 古橋 賢 不破 大 ●95年度 新井 実 大友 孝之 菅野 義秀 篠原 弘人 堀泉 浩 吉崎 浩司 ●95年度 木村 太一 西海 土智之 三津谷 祐之 渡邊 伸博	安藤 祐二 飯倉 道雄 飯島 貴子 飯田 将彦 飯塚 完司 井川 陽子 池田 義雄 石井 治美 石川 博章 石崎 克也 石塚 利子 石田 高名 石田 實 石塚 トシエ 磯雄二 市川 泰弘 市川 益偉 市村 孝子 伊藤 隆 伊藤 幸子 伊藤 康一 稲垣 謙太郎 井上 スヨ子 伊原 征治郎 入山 明美 岩井 静子 岩隈 利輝 上野 貴博 内山 脩 梅崎 栄作 浦西 峰子 江刺家 隆 江藤 香 衛藤 和文 遠藤 竹美 及川 佳子 大石 和太郎 大川 陽康 大川 淑子 大木 吉甫 大木 知紀 大木 幹雄 大岸 文夫 大久保 勝弘 大久保 恵 大越 紀代美 太田 智 太塚 竹郎 大塚 信男 新井 信男 荒井 美千代 荒木 義夫 有賀 幸則 安藤 加代子	沖田 次朗 奥田 眞 小倉 勝 小卒 眞一郎 小澤 佐季子 小田中 敏男 小淵 岩太郎 折原 和子 柏倉 英雄 片山 茂友 加藤 重雄 加藤 直 加藤 実 兼子 正生 金嶽 早苗 樺澤 康夫 加村 隆志 蒲原 秀明 川井 睦子 川上 省三 川腰 洋子 川島 信也 川添 恒次郎 川面 より子 川村 清志 北久保 茂 城戸 卓男 木村 寛治 木村 秀子 京野 晴郎 清島 達郎 日下部 恵美子 日下部 岱 楠井 昭二 窪田 英毅 倉島 清隆 栗原 美重子 栗本 収 黒田 矢須子 黒津 高行 桑原 忠 桑原 文夫 源田 郁絵 小泉 昇三 古閑 伸裕 小早川 隆夫 小林 哲二 小林 啓美 小林 武雄 小林 勉 斉藤 昭子 佐伯 正盛 酒井 茂紀 酒井 誠	坂本 康治 櫻井 朝雄 佐々木 哲夫 佐々木 文子 佐藤 勝行 佐藤 茂夫 佐藤 杉弥 佐藤 祐吉 篠田 豊作 渋谷 龍美 島村 敏 島村 一夫 清水 実 正道 寺 勉 城山 正則 白石 一郎 神雅彦 神馬 敬 菅沢 一之 菅原 和士 杉田 政男 杉村 京子 鈴木 昭正 鈴木 昭 鈴木 一良 鈴木 清 鈴木 功作 鈴木 正 鈴木 務 鈴木 敏正 鈴木 葉子 鈴木 良裕 須山 智恵子 清野 紀子 関根 政徳 倉島 茂男 高田 昭二 高西 忠司 高野 加恵子 高橋 明遠 高橋 篤夫 高橋 恒 高橋 久雄 高橋 雅充 高本 研一 田口 幸恵 武井 孝 竹内 秀雄 竹内 淳彦 竹内 真雄 田沢 博昭 太刀川 洗吉 辰巳 保 田中 隆治	田中 伸枝 田中 実 田辺 芳一 田辺 潤 谷澤 茂 谷本 善彦 田部 井 英世 玉木 保 田村 喜久枝 丹澤 祥晃 丹治 明 塚林 功 辻 幸和 土野 一清 土屋 秀雄 都築 みさを 寺尾 裕 寺島 喜美子 寺島 幸雄 徳川 喜壽 富岡 登志子 富田 和江 直村 潔 中川 恵二 中里 裕一 長澤 廣樹 中島 克典 仲嶋 桐子 中島 美代子 永堀 和江 仲摩 文雄 中村 洋一 Near Sun HABU 奈良 慶子 西尾 元充 西田 潔 西山 光昭 楢井 武一 丹羽 次郎 貫井 光男 野口 卓也 野崎 良典 野田 市太郎 野中 宏親 野村 隆 橋本 英哉 長谷川 洸 長谷川 裕子 波多野 純 初見 範子 花本 規恵 濱地 勝太郎 林 祐司	原利次 原田 敬司 原田 隆 原田 達哉 原田 實 張替 勇 樋口 昌春 平柳 恵作 廣川 勇一郎 廣瀬 治男 深田 孝 福沢 浩 藤崎 雅彦 藤田 則夫 藤田 蒼子 藤野 充平 伏見 恒夫 藤原 仁 船橋 昭光 船橋 昭一 古川 光 北後 寿 星野 坦之 堀田 勝喜 堀内 優子 堀口 光敏 本間 喜久雄 増田 修代 マダブ・N・ マンダール 松井 正長 松本 繁 松澤 正夫 松田 郁夫 松本 勇一郎 松本 義男 水沼 守 南山 芳文 富国 勉 三宅 正二郎 富崎 好恵 富澤 肇 宮本 春江 椋田 實 村川 正夫 村口 昌之 毛利 茂子 茂木 里織 本村 和美 森 真作 森 正美 森宮 脩 森山 幹郎	諸井 美千代 柳下 崇 泰野 正親 柳沢 章 山岸 嵩 山崎 茂 山品 寛一 山田 隆司 山田 真雄 弓野 武保 横谷 真一郎 吉岡 丹 吉岡 亨 吉川 寿子 吉田 清 吉田 茂 吉田 有美 和田 敏一 渡部 敏二 渡部 鑑 渡部 叡 渡邊 歩 渡辺 いち 渡辺 勝彦 渡部 修一 渡辺 高幸 渡邊 寛 渡邊 正道 渡辺 康夫

◎工友会の皆さんの技術を支援する「産学リエゾンセンター」が発足!!



フォームが決まっているネ! (学科対抗400mリレー予選)



選手宣誓をする大森紀彦君 (建築学科)

薫風に心身を洗う

第三十一回 体育祭

五月二十二日、五月晴れの下、一年生を対象とする体育祭が催された。入学後約ひと月半が過ぎ、生活環境の変化で心身ともに疲れの出る時期だが、開放感を充たしてくれたこの日、いずれの表情も、熱戦・珍戦の連続で、心底晴れやかだった。体育祭実行委員会のメンバー及び裏方の上級生たちの労をねぎらいたい。



声援する建築学科の女性たち



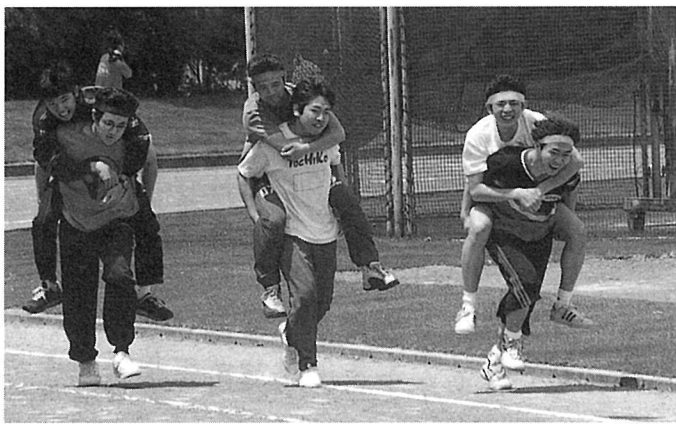
校旗の下に、互いに“友だちの輪”を確認 (開会式)



DJの素質がある!



晴れやかな開会式の表情



それにしても、お前、重いナ! (超重量級競走)



闘志満々のスタート (100m予選)



百足競走の足よりも軽く

就職戦線

傾向と対策

自己の適性をふまえ
腰の据った活動を!!

学生部就職課

来春の新卒者の就職戦線が本格化した。有力企業の相次ぐ経営破たんや景気の不透明感が広がる中、企業ガイダンスの概略であるが、大多数の学生から、早期のガイダンスの開催を要望する声が出ていた。

このような要望を次年度からのガイダンスに反映させるために就職行事を学事日程に組込ませると共に就職希望の学生が余裕を持つて就職行事に参加できるように努力するつもりです。

このような情勢を予想し、本学では三年生（現四年生）に行っている就職ガイダンス等を例年より一

さて、協定廃止二年目の今年度は、多くの企業が独自の考えに基づき、多様な採用方法を取るであろう。

特に企業情報、採用情報の早い時期からの公開が徹底したことに加えて、説明

三月早めて実施すると共に、三月初旬には、近年多くの企業の採用試験で用いられているSPI適性検査を行った。実施日の当日まで申し込みを受け付け多くの学生にSPIを体験できるように配慮したつもりであったが、予想した数には至らなかった。これは既に就職活動中の学生が多数いたためと思われる。

この時点では、三月下旬に設けた模擬面接の実施が当方の思惑どおりに運ぶか心配であったが、当日は合同セミナーや企業訪問などで既に志望先を絞り込んだ学生や今後の就職活動に活かしていこうとする学生で会場の学友会館ホールは満員で、採用担当者に扮した採用コンサルタントと学生との間で本番さながらに交わされた一問一答を学生達は食入るような表情で見つめていた。

これまで述べてきたことは、就職戦線の早期化を見越して就職課が行った就職

会や選考会を長期にわたって複数回開催する企業の増加が目立っている。これはできるだけ、多くの学生に自分の企業の内容を知ってもらう機会をあげ、手間と時間はかかっても自社にふさわしい人材を発掘していくような姿勢の現れと思われる。

また、採用の過程で導入が今後も増えてくると予想される手法としてはエントリーシートがある。これは「自己PR」「学生時代に力を入れたこと」「会社の志望



理由や、入ってから何がで
きるか、何をやりたいか」
など書く項目が多く、学生
が冷やかして受けるのは難
しいように作成されている。

の
誕生

中——

動態保存のSLの 保存後継者が誕生

——目下、大井川鉄道で研修中——

一括採用が六割程度であとは臨機応変という傾向があるので学生諸君は綿密な就職活動計画を作成し自分の適性を固めた上で就職戦線に臨んで頂きたい。

本学の工業技術博物館が収蔵展示するSL……産業考古学会認定の2109号（通称「B6」）の将来の「守り役」として、意気に燃える若い人材を得た。

協定廃止以後、就職に臨む本学の学生の意識が、二極化の様相を呈してきたように思われる。

と云って、その彼は、まだボーラー資格や運転技術を有しているわけではない。従って当人は、この五月一

春休み開始早々から就職課に顔を出し、一度や二度の失敗に挫けること無く果敢に挑戦して目的を達成で知られる、静岡県の大井「汽笛が聞こえるSLの旅」日からかつて《B6》が現役として活躍。今なお

する学生がいる反面、就職課に始ど顔を出さず、たつた一度の失敗で就職意識が希薄になってしまふ学生がいることも事実であり憂慮すべきことである。

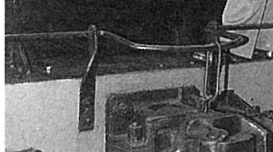
今後予想される厳しい就職戦線では、思いど通りに事が運ばず落ち込む時があるかも知れないが、就職戦線を楽しむような余裕を持つてこの難関に臨んで頂きたい。

川鉄道（金谷ノ千頭駅間）に出向、正式に機関士としての訓練に挑戦し始めた。

五月女浩樹君がその人物だが、彼は今春、わが日本工業大学の電気電子工学科を卒業。付属の東京工業高等学校時代に芽生えた「SLへの熱い思い」を生涯の仕事に生かすべく、四月一日付で工業博物館の職員として、母校に留まった。

いったい、東工や日工大で電気を学んだ五月女君が

B6の動輪に夢も運ぶ
 底流には、依然人間味のするメカへの根強い郷愁があるようだが、ともあれ五月女君が無事に研修を終え博物館のSL展示館への新たな活力の注入を、強く期待したい。



B6を点検中の五月女君

して国鉄退職後は、東工の実験実習助手を務めるかたわら、いま本学が動態保存する《B6》の面倒を、ずっと背負って来られた。

ゆえに大石先生の豊富な体験に基づく「SLに関する話、《B6》という名機を愛する思い」は、五月女君の胸に鮮烈だった。

以後、彼は急速にSLの虜になり、大学進学後の日曜日や閉館後を利用して

か? 実は彼は、中学生時代に放送部員として校内放送システムの構築に関わり、そんな関係で電気関係に興味を寄せ、東工でも電気科を選択したのだが、課外活動として放送委員会に属したことから、文化祭のイヴェント「ミニSL」の運転

「**B6**」の整備・点検に精出す大石先生の背中を見ながら、それを手助けするようになっていた。

「とにかく僕は、あのSLの煙の匂い、走っている時の排気音が何とも好きなんです。それに比べて、単にスィッチのオン・オフで走る

披露で警備や安全確保のため、責任者の大石和太郎先生に出会ったのが、「SLに強い興味を抱いたきっかけだった」と言う。

この二年ほど、本学学内では、諸般の事情から「ミニSL大会」が開催されていないので、多くの学生が大石先生存在を知らない

電車は、ただの機械という感じが強く、あまり人間味がしない。まあ、いまの世の中はデジタルばやりですが、僕はSLのようなアナログ感覚を充たしてくれるメカも大切なような気がするんです。

そんな五月女君に、ある日、大石先生から「自分の

であろう。

ちなみに先生は、JRの前身・日本国有鉄道時代に、各種の蒸気機関車や電車の運転士を歴任。加えて東海道新幹線の営業第一号車運転の荣誉に浴するなど、鉄道界では「運転の生き神様」

後継者にならないか」との声を掛かり、貴重な《B6》を末永く後世に伝える職務に就くことを、決心した。

さて五月女君が、約一年の予定で大井川鉄道に向向した数日後、日本経済新聞



と称されるほどの方だ。それが「SL雄姿再び―各地で復活」と大きく報じた(五月四日付)底流には、依然人間味のあるメカへの根強い郷愁があるようだが、ともあれ五月女君が無事に研修を終え博物館のSL展示館への新たな活力の注入を、強く期待したい。

院生の松原君の研究、
笹川科学研究所の助
このほど大学院工学研究
科電気工学専攻・博士前期
課程の松原寛人君（大宮工
業出身）が、（財）日本科学
協会の平成十年度「笹川科
学研究助成」の対象者の一
人に、決まった。

部門は海洋・船舶科学で、
研究テーマは「航行援助用
ミリ波電波センサの基礎研
究」で、助成金額は六十五
万円。

研究内容は、昨今、海上
における船舶の衝突や座礁



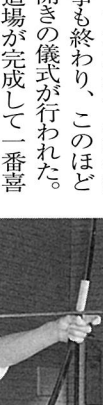
STUDENT

'98
face

見の前で自分自身を確かめ
また仲間同志でお互いをチ
ェックしあう。雨露をしの
ぐばかりでなく、まともな
稽古をするためには弓道場
は欠かせない。

しかし、松田君の弓道場
に関する苦勞は高校時代か
ら始まっている。というの

一昨年の十月に一応の完
成を見、使用を開始してい
る本学の弓道場。最後まで



田智行君に話を聞いてみた。

松田君は出身校の弘前工業高校でも弓道部に所属していた。

弓道は心身を修練する武道である。単に当たり外れを競うスポーツではない。したがって競技会などでは、立ち姿、構えた姿勢、弓の引き方など所作動作の安定感、美しさといったものが必要なポイントになる。

練習のときには大きな姿勢も、雪の多い青森県のこと、冬場には高校の片隅にあった弓道場が雪ですっかり埋もれてしまう。そうなるため練習のためには、まず雪かきから始めなければならぬ。一時間も二時間もかかって雪かきが終わったときには練習時間が全くなくな



先にな
成金

者は、波長が長いため映像の分解性能が不十分で、船舶の形状や周囲の地形等が正確に取得できない欠点があるが、波長の短い後者の利用で、より詳細な映像が得られることが計画の狙い。

この研究が順調に進展すれば、「海洋国日本の今後に多大な貢献をもたらすであろう」と、指導に当たる渡辺康夫教授も、大きな期待を寄せている。

犯人逮捕の協力で

学生二名に感謝状

さる四月五日、本学の三年生、向井秀君ならびに一年生の山田剛史・小林毅の両君に、強盗犯人逮捕の協力で、杉戸警察署より感謝状が贈られた。

事件は、四月一日午後三時四十分ごろ、刃物を持った男(四九)が宮代和戸郵便局に押し入り、現金七十万円を奪つて逃走。しかし同局員の佐怒

っているようなことも度々であった。
 「二つのことに集中するとのみり込み過ぎて他のことが目に入らなくなるタイプ」と自認する彼は、ロボットにも興味があった。本格的に学ぶためにはやはり大学への進学が必要と考え、推

した当時の日工大にはまだ弓道場がなかった。先輩から近々弓道場が出来るという話は聞かされたが、現実にあるのは単なる弓道場予定地と名のついた草ぼうぼうの地面だけ。晴れた日には的を置いて最低限の練習は出来るが、もちろんそんな



田 智行君
(機械工学科3年)

に挑戦の新主将

薦B方式で日工大を受験。な稽古では満足できない。残念ながらこれは不合格だった。そこで宮代町、杉戸町、幸手市といった近隣地区の弓道場を渡り歩いて活動を続けた。今度は雪かきではなく、弓道場への移動のために時間を取られるようになってしまった。

大学に入って雪からは解放されたものの、彼が入学

松
(機

■ 4段

「賀さんが『泥棒、泥棒』と声を上げながら追跡しているのを、近くにいた向井君らが目撃。佐賀賀さんに協力して犯人を追いかけて、みごと取り押さえたというもの。」

それにしても、向井君は別として、四月一日は、まだ入学式を終えていなかったとは言え、小林・山田両君にとってはオリエンテーションのため、の登校日に当たり、事実上、日工大生になったばかりの記

念すべき日時。おそらく、この勇氣ある行いは、三人にとって生涯忘れられない貴重な体験となったに相違ない。

花どきにおさわしい明るいニュースだった。

を乗り切れたのも地元の各弓道連盟やＯＢの支援があったからだ。道場開きの式には、弓連やＯＢ会からも多数の方々が参加し、みな心から喜んでくれた。

高校時代にすでに二段の段位を取得していた松田君だが、昨年は三段を取得そして今年は四段の審査に

挑戦する。弓道家にとって聖地とも言える明治神宮松田君自身も前々から一度は射つてみたいと思つていたその憧れの地で審査は行われる。

本人に自信のほどを聞いてみると、三段を取つたと

きよりはは確実に上達しているが、はたしてそれが四段に届くほどのものであるかはわからないとのこと。

新しい弓道場の威力か
今春は弓道部に十名もの新入部員が入った。中には女子学生も三名ほどおり、これで女子も念願の団体戦に出場できる。四段を獲得した松田新主将のもと、自分たちの弓道場で部員全員が大活躍する日もそう遠い先のことではあるまい。(塚)

